

伝道弟子・伝道弟子マニユアル(使徒 1:8)	70 人・重職者マニユアル(使徒 1:14)	ミッションホーム・ミッションホーム(MH)マニユアル	いやしの働き・いやしマニユアル
* 序論 ▲使徒 1:8-私の人生全体が神様と通じること 伝道弟子のマニユアル-初代教会の 3 千弟子 1)300 人に伝える(受け入れ)→ 30 人弟子→ 働き人 2)300 人上の 1 番をわかった 12 人集い→ 伝道人(地教会) 3)300 人(上の 1 番をわかって×12 人集い×7ヶ所→ 宣教師 ▲伝道の味・祝福を知らなければならない。 1)キリストの唯一性 2)時刻表(7)-オリブ山、マルコの屋上の間、エルサレム、サマリヤ、アンテオケ、使徒 13 章、マケドニア、ローマ、 3)個人化-結局はこれらすべての祝福が、個人化にならなければならない。 ▲どのように、このことが起きたのか 1.聖書の証拠 1)見ることができないこと、することができないことを見て、行くことができないところに行くようになる。 (1)使徒 241.3 千弟子 (2)使徒 3:1、午後三時の祈りの時間に…足のなえた人 (3)使徒 8:4-8、使徒 8:26-40、絶対にユダヤ人は行けなくなっている。 (4)使徒 13 章魔術師、使徒 16 章悪霊につかれた占い師、使徒 19 章偶像崇拜、どんな宗教もすることができない。 (5)使徒 19:21、ローマも見なければならぬ。 (6)ローマ 15:23、イスパニヤまで行かなければならぬ 2)当然、必然、絶対的であるとして行けば良い。 (1)いやし-霊肉ともに人をいやす(特に霊的問題) (2)文化-伝道して偶像文化を変えてしまった。 (3)制度-そして、まったくその人々が住んでいる制度も変えてしまった。奴隷制度、主人制度 3)神様が隠された弟子を立て起こすこと(使徒 13:1-使徒 19:21) ▲このときから、大きい 2 つのことが見え始める。 2.地域の状態証拠 1)経済水準、文化水準、宗教水準 ▲地域に入って-経済水準、文化水準、宗教水準を見て攻略すれば間違いない。 2)影響を与える団体-理由を分かなければならぬ。 3)黄金漁場、死角地帯、災い地帯が見える。 3.初代教会(マルコの屋上の間の証拠 1)8 ミッション→ 全体を見なさい ▲どのようにすれば、その地域に神様のみことばが入るのだろうか。それを見ることをいう。 2)10 改革→ ただ ▲改革はいっくり返すのでなく、正しくすることだ。 3)10 革命→ サミット ▲私たちはもう外側に出て行って革新を起こして生きさなければならないことがとても多い。これを一言で話せば、サミットとして用いられなさい。 * 結論-うつわ準備 1)ユダヤ人思想を持っては世界福音化ができない→ すべての国の人々、万民、地の果てまで(マタイ 28:20使徒 1:8) 2)現場文化-多くのこと中で現場文化というと、最も簡単に話せば、会堂に入っていた。 3)教会の大きさ-3 千弟子、アンテオケ、パウロ宣教師 ▲それで、みなさんがうつわを準備する分、入れられる。	* 序論-伝道スクール、文化スクール、祈りスクール ▲重職者は必ず地教会で 3 つのことをしなさい。 1)料-伝道(3 千弟子)-伝道スクール ▲最も素晴らしい生きるといことが伝道だ。それで、地教会の中では伝道スクールを作って、伝道の祝福が何かを分かるようにしてあげなさい。 2)レムナント-文化スクール(成功) ▲そして、レムナントを中心に、文化スクールを作りなさい。ここでは、明らかに答えを与えなければならぬ。神様はあなたが成功するように呼ばれたので、当然しなければならぬ。神様がくださった唯一性を見つければ、必ず勝利するようになっている。 3)幸せ-祈りスクール ▲最も幸せな生活を送るように教えなければならぬ。 (1)使徒 1:1、考え-祈りに最も重要な部分が考えだ。 (2)使徒 1:3、刻印-40 日間神の国のことを…違った刻印を変えてあげなさい。 (3)使徒 1:8、体質-ただ聖霊があなたがたに臨めば力を受けて…私たちの体質を変えなければならぬ。 (4)使徒 2:1、実際の祈り開始-五旬節の日になって… (5)使徒 3:1、持続-午後三時の祈りの時間に…一人で持続、一人でいる時祈るべきだ。 ▲なぜ重職者時代なのか。3 つの理由がある。 1.現場の人 1)ルカ 10:1-20、70 人だ。 2)使徒 1:14、この中で 70 人がみな集まったのかはわかりませんが、マルコの屋上の間に集まった。 3)使徒 241、この人々たちを通して同じような人が連結したが 15ヶ国の産業人が集まった。 4)使徒 241、現場に 3 千弟子が起きた。 5)使徒 242-45、重職者が恵みを受けて力を得るから、教会の中に経済(献金)が生き返る。 2.現場宣教師 ▲牧師が講壇宣教師ならば、重職者は現場宣教師だ。 1)使徒 6:1-106.重職者をたてたその時間から、ずっと流れて皮なめシモンの家まで、その現場を一度見なさい。 2)使徒 13:1-使徒 19:21、この過程を一度練って見なさい。 3)ローマ 16:1-27、ローマ 16 章にいる重職者を詳しく見なさい。この方たちがみな現場宣教師であった。 3.危機時代を防ぐ者 1)使徒 7:1-60.重職者ステパノがパリサイ人にした説明だ。死ぬことを恐れなかった。 2)使徒 11:19、使徒がみな困難にあったが、重職者が集まってたてた教会がアンテオケ教会だ。 3)使徒 12:1-25、その日の夜に重職者が集まって祈禱会が行われたのに大きいみわがが起きた。 4)使徒 17:6、テサロニケにヤソ、使徒 18:4 節にプリスカ夫婦。神様が全部準備されたのだ。 * 結論-重職者の結論(ローマ 16 章) 1)伝道者の最も祈りの中に出てくる人 2)まことの伝道者が見るとき、最も安らかな人 3)そして、ローマ 16 章に出てくる人々は最も重要なことをともにした人々だ ▲この祝福を捜し出す主役になるように願う。	* 序論-福音エリート ▲私たちのレムナントを完全に福音エリートにしてあげなさい。こういう精神を持って始めなければならない。ミッションホームに入ってくるとき、はじめからそのように話してあげなければならない。みなさんがミッションホームで子どもたちにそろえてくれなければならないいくつかのマニユアルがある。 1.読書教室 ▲そこにいる子どもたちを対象に、一時間だけ本を読むようにして、そうでなければ、本を読む週を作った読むようにしなさい。 1)古典、歴史 2)信仰書籍 3)伝道運動-そして実際に伝道運動する私たちのタラッパンで作った本も読むようにさせてあげなければならない。 2.祈り教室 1)祈りと福音(使徒 1:1)-福音をどれだけのよう理解したかにしたがって祈りが変わる。この福音を私がどれだけ深く味わうかにしたがって祈りも深くなる。 2)祈りと刻印-刻印されたことぐら起きるのに、誤った刻印は一生涯続く。 3)祈りと体質-私たちの体質では事実上、世の中に勝てない。それで、聖霊の満ちしを求めて祈り 4)祈りと実際-使徒 2:1 節、こういう部分を教えなさい。 5)祈りの持続-そして、一人で生き残るべきだ。祈りの持続。一人が力を得なければならない。一人で答えを得なければならない。一人で幸せでなければならない。使徒 3:1、午後三時の祈りの時間に… 3.いやし教室 1)家系、家庭、親-子どもたちは、ほとんど家庭、家系、両親に対する霊的問題が連結している。こういう部分がミッションホームで絶好の機会ではないか。 2)傷-子どもたちの傷を、唯一ミッションホームでできる。 3)性格-はなはだしきは、子どもたちの誤った性格も変えてやれる。こういうことをミッションホームで必ずしなければならない。 4.エリート教室 1)精神-レムナントに RUTC とレムナント精神を植えなさい。 2)10%-10%の中に入るように、これを 1%の中に入るように、これを唯一性に行くように、それでサミットで立つようにさせるのだ。それでレムナントを伝道弟子として使うのだ。こういう訓練をさせなさい 3)征服-完全に征服できるプログラムを教えなさい。 5.伝道教室 ▲私たちのレムナントをこまでは、してやらなければならない。みことば、祈り、伝道の中にある。 1)働き人-あなたは、働き人になるほど、答えを受けなさい。 2)伝道者-学校のなかで地教会になるほど答え 3)宣教師-大人たちがあなたを手助けしないでかまわないほど、人々を動かせるように訓練を受けなさい。 ▲みなさんがたで見ずに、この単語は現場で人を動かす単語だ。これから、私たちの大学でもあるいやしレムナント専門の働きをする時にしようとする内容だ。そして、私たちが RUTC の中で、子どもたちに伝道訓練させるとき、ここに対するあるレベルをおこうとするのだ。確実なマニユアルを持ってしなければならない。	* 序論 ▲序論-いま、みなさんが理解しなければならないことは、どんなマニユアルを先に持っていなければならないか。 1)私たちの生活とキリスト 2)私たちの刻印されたこととキリスト 3)私たちが持っている体質とキリスト 4)私たちが実際に持たなければならないキリスト 5)この中で私たちができる深い祈りを味わいながら、これだけでできれば、事実上いやされ始める。 ▲このマニユアルを確かに置いて、私たちは始めなければならない。なぜなのか。 1.21 世紀最も大きい課題がいやしだ。 1)3 団体-これを持って今、3 団体が出た。 2)宗教団体-こういういやし側に私たちの教会だけじっとしているので、宗教団体が起きた。 3)第 3 の団体-このいやし側に気功の力、超能力などいろいろなことをしながら第 3 の団体が起きた。 ▲ところで、これが丸ごと後ほど霊的問題がくるようにさせる。そうだとすれば、私たちはこのいやしに対する確実なマニユアルと答えを持ってしなければならない。 2.身分(権威) ▲私たちの身分と権威はどうなのか。 1)イエス・キリスト正しく知れば、救われたことは確実にヨハネ 5:11-13:1 コリント 12:3。 2)子ども-イエス・キリストによって、私たちは神の子どもだ。 3)権威-それなら、私たちはイエス・キリストの御名で祈ることができる権威が与えられている。これを持っていやすことができる。 ▲わたしの名で祈りなさい。そうすれば、何でも答えるだろう(ヨハネ 14:14ヨハネ 1:12 節を話してあげなさい。受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には神の子どもとされる特権をお与えになった。証拠は一つしかない。イエスがキリスト、神様の御子が信じられる者は救われた者だ。それでは、その信じる者は神の子どもになる権威があつて、その権威で祈ることができるのだ。 3.実地的であることを、いやしで見つけなさい 1)霊的方法-祈り ▲これで私たちは力を得られる。それで、聖霊に満たされれば、からだにもみわがが起きる。 2)自然の方法-神様がくださった自然の方法がある。呼吸 3)食べ物-神様がくださった食べ物の方法がある。 4)運動の方法-神様がくださった運動方法がある。 ▲私はこの(3 番)の四種類が私にみな役に立つ。それでいくら疲れてもみなさんが 2 番ができれば疲れない。みなさんが正しく祈りの力を得て、この 4 種類をその通りだけすれば病気に勝てる。それで、わたしの名で求めなさい。そうすれば、何でも答えるだろう。このようにして、時代を生かす証人なることをイエスの御名で祝福します。